

家をも喪ふにいたるハ、此ものにて候、
 祭礼・祝儀・老人・病者の養は格別
 に候へとも、年若きもの決して飲過
 ずべからず、仍て今こゝに添へて
 諭し置候、総て農民たるもの、この
 御書付之旨、能々心得べき事肝要
 に候、村々へ頒ち与ふるには数多書

写すへけれハ、おのつから誤字・脱字も
 あらんことを恐れ、改て板に刻ませ候間、
 名主・組頭等ハ勿論、小前平百姓の内二も
 年長候者とも常々厚く心懸、世話
 いたし可レ申候、所によりてハ読物手習
 など教ふる者へも渡し置、あまねく
 村民ともへ読きかせ、常に能々教諭

せしむべきもの也

天保九戊戌歳 月

(山本大膳蔵版)